



上賀茂神社奉納 小丸屋扇子展

言ノ葉の

令和3年4月16日(金)~18日(日)
上賀茂神社 庁屋

本

上賀茂神社奉納 小丸屋扇子展 言ノ葉の舞

会期／令和3年4月16日(金)～18日(日)

会場／上賀茂神社 庁屋

内容／文芸扇子展

お問い合わせ／

(株)六曜社 上賀茂神社小丸屋扇子展 言ノ葉の舞 事務局
〒152-0002

東京都渋谷区渋谷1-12-2 クロスオフィス渋谷4F

Tel.03-5774-7321 Fax.03-5774-7322



交通案内

- 市バス・京都バス「上賀茂神社前」下車すぐ
- 地下鉄「北大路」「北山」駅より車で約5分
- JR京都駅・近鉄京都駅からタクシーで約30分

企画・運営



〒606-8344 京都府京都市左京区岡崎円勝寺町 91-54 小丸屋ビル
TEL:075-771-2229

<http://www.komaruya.jp>

株式
会社 六曜社
ROKUYOSYA . INC

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-12-2 クロスオフィス渋谷4F
TEL:03-5774-7321

<http://www.rokuyosya.co.jp>



1 細殿(ほそどの) [重要文化財]。皇族の参拝や、斎王が神事をご覧になる際にご利用の御殿。寛永5年(1628)の造替・2 楼門 [重要文化財] 3 今回の「言ノ葉の舞」展示会場となる庁屋(ちょうのや) [重要文化財] (写真右)。写真左は境内摂社の奈良神社で、神に供える神饌(しんせん)および料理飲食の神を祀るといふ 4 境内を流れる「ならの小川」。藤原家隆の歌(風そよぐならの小川の夕暮れはみそぎぞ夏のしるしなりけり)でも知られる 5 葵祭

由緒ある上賀茂神社を彩る優雅な美の世界

詩歌が華やぐプレミアムな文芸扇子

日本人ならば誰しもいちどは訪れてみたい街、京都。街中には、都として栄えた歴史と伝統が今も色濃くその名残を漂わせています。近年では、海外でも不動の人気を誇る世界的な観光都市となりました。

この観光人気の要因のひとつとして、1994年の世界遺産登録が挙げられます。このとき「古都京都の文化財」として、京都周辺の社寺・史跡あわせて17か所が世界文化遺産への登録を果たしました。

平安京遷都以来、長きにわたる日本の政治と文化の中心であった京都には大変な数の社寺や史跡が残されています。その中からとくに厳選され、世界遺産へと選出された文化財は、いずれも各時代を代表するようなものばかりとなりました。

そのうちのひとつに、京都でも最古の時代からのお社である上賀茂神社(賀茂別雷神社)があります。創建は678年といわれ、ご祭神は「賀茂別雷神(神鳴り)」を意味し、雷を神様と考えていた古き日本人の信仰を伝えています。

平安京遷都以後は、皇城鎮護の神としていっそうの崇敬を受けるようになります。明治の近代社格制度で精進めて装飾し、世界にひとつだけのオリジナル文芸扇子へとお仕上げいたします。

百人一首で藤原家隆が歌に詠み、かの紫式部もお参りに訪れていたと

京の老舗「小丸屋・住井」による逸品

小丸屋の歴史は1000年以上と推測され、口伝により代々その伝統を守りつづけてきました。

公家であった小丸屋は、時の帝より「伏見深草の真竹を使い、団扇作りを差配せよ」との命を受け、深草の地の人々を動かして天正年間(1572-1592)に「深草団扇」を確立しました。江戸時代に入ると団扇文化が開き、この「深草団扇」が京土産として江戸・大坂などで流行し、全国に名を馳せて一世を風靡しました。

とくに、小丸屋と歌仲間であった瑞光寺の開祖・元政上人が考案した団扇はさまざまな形のある深草団扇のなかでも「元政型深草団扇」と呼ばれ、形は裏型で表に歌鳥風月、裏には詩が書かれた団扇が多くの人々に愛されました。

現在、名のある香川県の「丸龜団扇」や岐阜県の「岐阜団扇」も、元をたどれば小丸屋の先祖がその地に伝えたものです。



文芸扇子 完成見本

は官幣大社の筆頭とされ、現在にいたるまで広く信仰を集めつづけてきました。また、下鴨神社とともに斎行される葵祭(賀茂祭)は、祇園祭時代祭とならぶ京都三大祭のひとつとして市民に親しまれています。

この歴史ある上賀茂神社にて、現代詩歌を京扇子に装飾し、展示する「言ノ葉の舞」を開催することが決定いたしました。

文芸扇子展「言ノ葉の舞」は2016年にも上賀茂神社にて開催され、その優雅さからたいへんご好評いただいたものです。本展においても、京都で創業396年の老舗「小丸屋住井さん」にお力添えいただき、美しい扇子に詩歌作品を一点一点丹

いう上賀茂神社。その由緒正しきお社にて開催されるプレミアムな文芸展「言ノ葉の舞」にぜひ多くの優秀作品が展示されますことを心より願っております。

寛永元年(1624)より団扇製造を家業とし、1800年代より舞扇子の製造も始めました。

今日では、京都の春の風物詩「北野をどり」「都をどり」「京おどり」「鴨川をどり」の舞扇子や舞台小道具を担当しています。また、日本全国の各流派師匠の舞踊会の小道具、狂言とつけ打ちをし、裏方として舞台を支えつづけています。先人より引き継いだ京の伝統を次世代に伝えつつ、今日の文化を世界へ発信する小丸屋の美の世界をぜひこの機会にお楽しみください。

